高槻市文化財調査概要33

嶋上遺跡群30

2006

高槻市教育委員会

嶋上遺跡群30

はしがき

平成17年度も、市内各所におきまして個人住宅の建設や史跡整備等に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施してきました。

嶋上郡衙跡や安満北遺跡等におきましては個人住宅の建設にかかわる小規模な調査を実施しました。嶋上郡衙跡の調査では郡衛周辺部の状況、安満北遺跡の調査では安満遺跡北辺部の状況を知ることができるなど、各遺跡の具体的な内容や広がりを考えるうえで基礎的な資料が蓄積されています。

史跡今城塚古墳では、整備工事が二年目を迎え、市民の歴史学習や憩いの場となることを目指して工事をすすめてきました。これに関わって第9次規模確認調査を実施したところ、前方部隅部の埴輪列や葺石、段築などの遺構が出土しました。また、内濠と内堤の北西隅部でも護岸列石や埴輪列の状況がはじめて明らかになりました。これらから当時の土木技術や施工方法、作業手順を再現することができ、古墳本来の姿を再現するうえで大きな成果となりました。

史跡闘鶏山古墳では、保存整備にむけての基礎的な資料を得るため第4次確認調査を実施しました。前方部では墳丘を覆う葺石が出土し、古墳築造に関して新たな知見を得るとともに、古墳南側の方形壇の調査を進め埋葬施設が確認されました。今回、明らかになった調査結果を今後の整備に活かしていくものです。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成18年3月31日

高槻市教育委員会　文化財課
課長　冨成哲也

例　　言

1．本書は、高槻市教育委員会が平成17年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・嶋上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額2,500,000円）の概要報告書である。

2．事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成17年８月12日に着手し、平成18年３月31日に終了した。

3．調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、鐘ヶ江一朗、橋本久和、宮崎康雄、高橋公一、西村恵祥、佐伯めぐみがおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。整理作業については以下の各氏が参加した。厚く感謝する。

白銀良子、西岡和江、松下智子、栂靖代、池田理美　（順不同・敬称略）

4．調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

矢萩章吾、藤田　孝、大塚久美子、平尾聡一郎、下田正信　（順不同・敬称略）

目　　次

Ⅰ　嶋上郡衙跡 …… 1
Ⅱ　郡家本町遺跡 …… 3
Ⅲ　天神山遺跡 …… 4
Ⅳ　安満北遺跡 …… 6
Ⅴ　出土遺物保存処理 …… 9
Ⅵ　闘鶏山古墳確認調査 …… 10
Ⅶ　今城塚古墳規模確認調査 …… 11

No.	遺跡名（地区）	調査地	面積（m²）	申請者
1	嶋上郡衙跡（33−E）	郡家新町395—8	97.40	矢萩章吾
2	〃　（75−M）	郡家新町163—28	74.81	藤田孝
3	郡家本町遺跡（2005−1）	郡家本町727—1他	79.00	大塚久美子
4	天神山遺跡（2005−1）	天神町二丁目932—57・70の各一部他	340.47	平尾聡一郎
5	〃　（2005−2）	天神町二丁目932—57・70の各一部他	333.66	平尾聡一郎
6	安満北遺跡（2005−1）	安満中の町481−1・482・483−2	299.01	下田正信

平成17年度　市内遺跡調査一覧

Ⅰ．嶋上郡衙跡

1．嶋上郡衙跡（33－E地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町395－8番地にあたり、小字名は「仮又」である。現状は宅地である。当該調査地周辺では後期古墳の周濠等が確認されている。

調査は個人住宅建設に伴い工事立会を実施したものであるが、基礎の掘削深度は地表から0.4ｍまでであり、盛土上部の黄色土（0.35ｍ）と盛土下部の黄色土（砂礫混じり）が確認されただけで、遺構・遺物は検出されなかった。

（橋本）

図１　嶋上郡衙跡（33-E）調査位置図

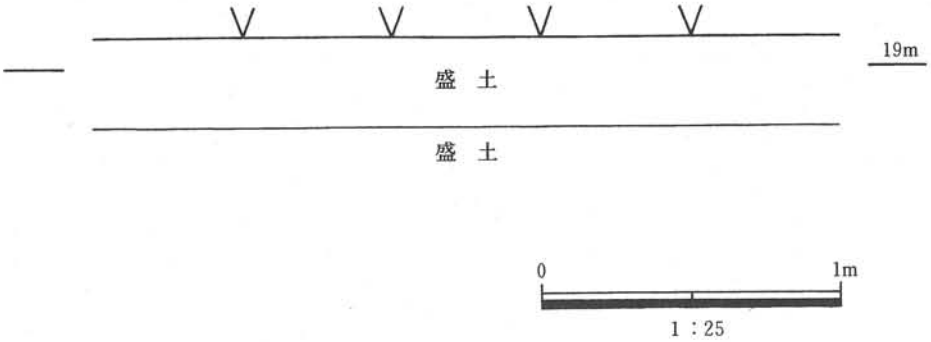


図２　嶋上郡衙跡（33-E）土層模式図

2．嶋上郡衙跡（75ーM地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町163－28番地にあたり、小字名は「宛本」である。現状は宅地である。当該地は山陽道南側に位置し、これまでの周辺部の調査では後期古墳の一部や掘立柱建物等が確認されている。

調査は個人住宅建設に伴い工事立会を実施したもので、盛土等を除去した後、土層の観察と遺構の確認を行った。

層序は盛土(黄色土・0.4 m)、青灰色礫(0.75 m)灰色礫(0.4 m)、黄灰色砂礫である。青灰色礫以下も当該地域の宅地土とみられる。建物基礎は盛土内に収まり、遺構・遺物は検出されなかった。

図3　嶋上郡衙跡（75-M）調査位置図

（橋本）

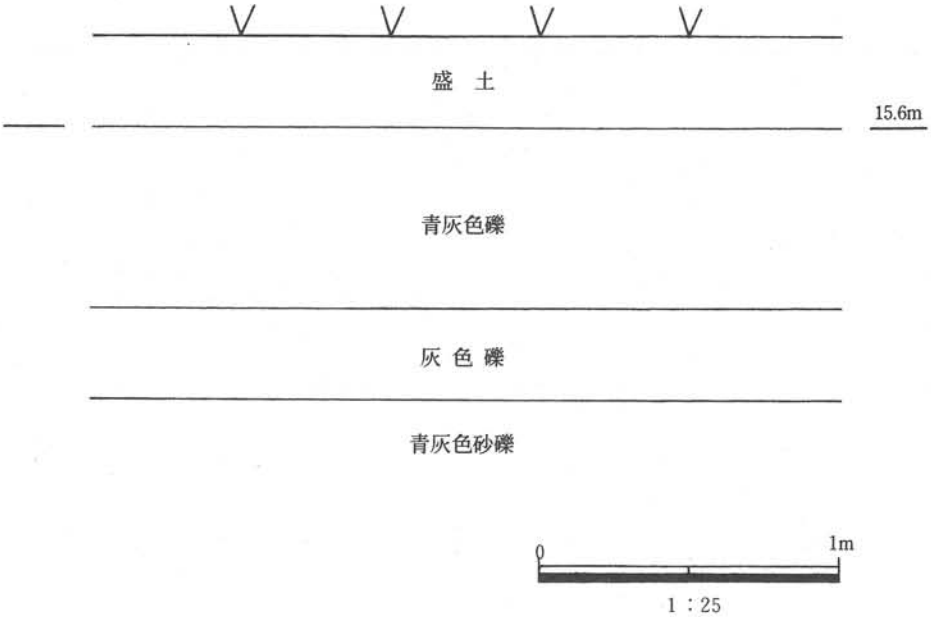


図4　嶋上郡衙跡（75-M）土層模式図

Ⅱ．郡家本町遺跡

1．郡家本町遺跡（2005－1）の調査

調査地は高槻市郡家本町727－1、727－2にあたり、小字名は「西野々」である。北側は標高30mほどの丘陵となり、当該地は南側に傾斜する斜面に位置する。個人住宅建設工事に先立って、発掘調査を実施した。

図5　郡家本町遺跡（2005-1）調査位置図

調査は届出地の中央付近に調査区を設定し、土層の観察と遺構の確認をおこなった。層序は、現代盛土（0.1m）、暗灰色砂質土[耕作土1]（0.15m）、礫混じり暗茶褐色粘質土[床土1]（0.2～0.25m）、灰色砂質土[耕作土2]（0.1m）、礫混じり暗褐色粘質土[床土2]（0.1m）、黒褐色粘質土（0.05m）、暗灰色砂礫（0.6m）、淡灰色砂[地山]となる。

地表下約0.7mまでは近代から現代の耕作に関わる土層であり、2時期の耕作土・床土が認められた。一方、0.7m以下の暗灰色砂礫は、0.6mと非常に厚い土層で、直径0.4～0.3mの巨大な礫や、摩滅した弥生土器・土師器・須恵器の細片を含んでいることから、当該地の北東側を南流する芥川の氾濫堆積とみられる。また、この暗灰色砂礫の上面で検出した黒褐色粘質土は、遺物の出土は確認できなかったが、遺物包含層の可能性がある。　（高橋）

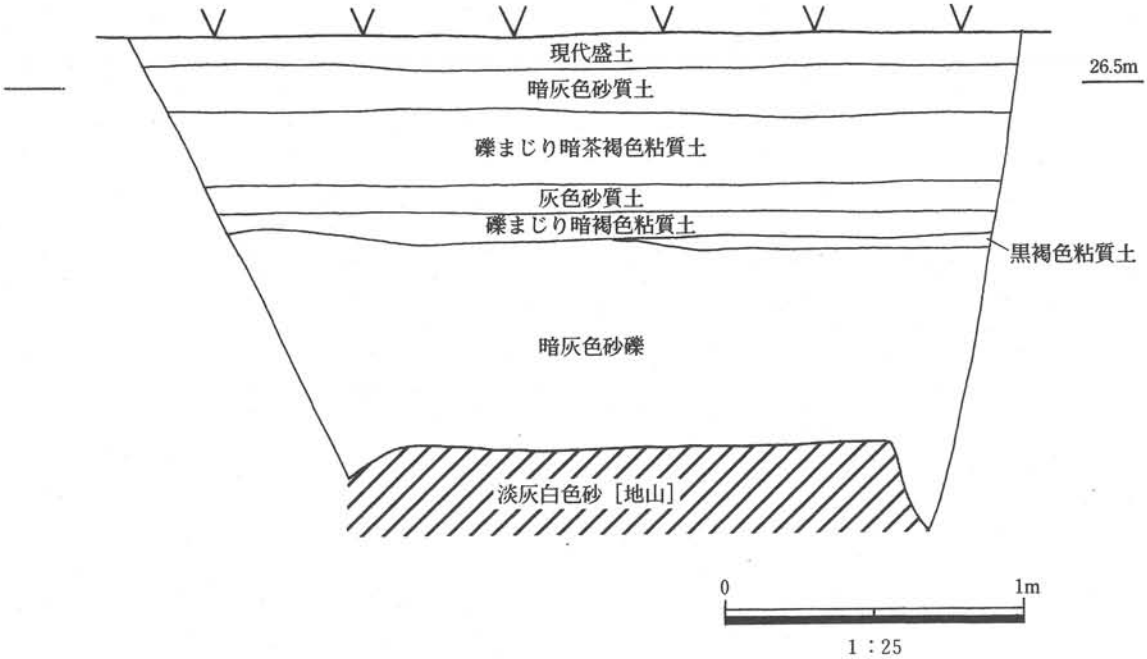


図6　郡家本町遺跡（2005-1）土層模式図

Ⅲ．天神山遺跡

1．天神山遺跡（2005－1）の調査

調査地は高槻市天神町二丁目932－57、932－70番地の各一部他にあたり、小字名は「東山」である。現状は宅地である。個人住宅建設に伴い発掘調査を実施したものである。当該地周辺は弥生時代の集落跡として知られているが、1950年代から大規模な宅地造成工事が実施されている。周辺部の開発では遺物包含層や弥生式土器等が出土している。

図７　天神山遺跡（2005-1）調査位置図

調査はガレージ部分の掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（0.1 m）を除去するとただちに黄褐色粘土となり、当該地周辺の地山である。地山面やガレージ壁面部分で精査をおこなったが、遺構・遺物は検出されなかった。

（橋本）

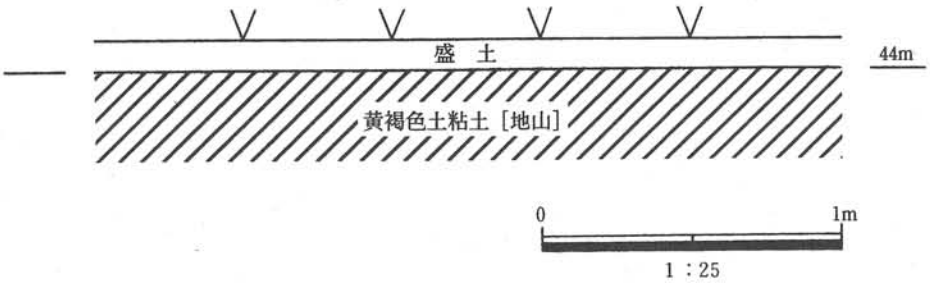


図８　天神山遺跡（2005-1）土層模式図

2．天神山遺跡（2005－2）の調査

調査地は高槻市天神町二丁目932－57、932－70番地の各一部他にあたり、小字名は「東山」である。現状は宅地である。個人住宅建設に伴い発掘調査を実施したものである。当該地は弥生時代集落跡の周辺部である。

調査は既存建物の解体後、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（0.1 m）、黄褐色土［地山］であり、遺構・遺物は検出されなかった。

（橋本）

図９　天神山遺跡（2005-2）調査位置図

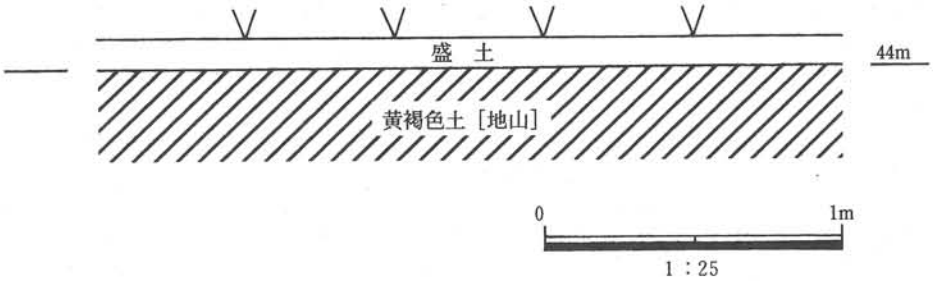


図10　天神山遺跡（2005-2）土層模式図

Ⅳ．安満北遺跡

1．安満北遺跡（2005－1）の調査

調査地は高槻市安満中の町481番、1482番、483番2にあたり、小字は「猪ノ口」で、遺跡の南辺に位置する。今回共同住宅建設に先立つ発掘調査において、大型の柱穴をもつ掘立柱建物が検出されたため、大阪府教育委員会と協議のうえ、この建物の規模を確認するための調査を国庫補助事業として実施した。なお、これらの調査は一連の調査区で実施しているのであわせて報告する。

図11　安満北遺跡（2005-1）調査位置図

基本的な層序は、現代整地(青灰色バラス・0.4～0.2 m)、耕作土(暗オリーブ褐色シルト・暗褐色シルト・0.1 m)、床土(褐灰色シルト・淡灰褐色シルト・0.2 m)、河川氾濫層(にぶい黄褐色砂質シルト・0.4～0.2 m)で、遺構検出面(にぶい黄橙色シルト)に達する。遺構検出面である土層からは、弥生土器が出土しており、地山ではなく、整地土とみとめられる。また、5世紀後半代の土器を伴う遺構を上面で検出していることから、当該地一帯に整地がなされたのは、5世紀後半以前と考えることができる。

遺構・遺物(図版第3～4、図12)

検出した遺構は、掘立柱建物、落ち込み、小穴等である。

掘立柱建物1は調査区北半部で検出した。調査対象地外に至るため北及び東側が未検出であるが、2間以上×4間以上の東西棟とみられ、南西コーナー部を確定することができた。建物の主軸の方位は磁北に対してN－8°－Eで、柱間寸法は2.4 m等間である。柱穴は一辺1.1～0.9 mの方形を呈する大型のもので、掘形内には柱根が遺存していた。柱根の太さは現状では0.25～0.2 mだが、掘形の柱根が接する底部が一段深く掘り込まれており、その形状から柱の直径は0.5～0.4 mに復元できる。一方、掘形の深さは0.3～0.1 mと非常に浅く、当初からこうした浅い形状とは考えにくい。壁面の土層観察によれば、遺構検出面の直上に河川の氾濫に伴うとみられる堆積層(にぶい黄褐色砂質シルト)がみられことから、建物の廃絶後、当該地の北東側を流れる檜尾川の氾濫により遺構上面が流失し、かろうじて掘形下半部以下が残ったものと推察できる。掘形からは律令期の土師器・須恵器の細片が出土しているが、時期を特定できる遺物はみられない。しかし、柱穴の規模・形状から奈良時代に属するとみられる。

落ち込みは掘立柱建物1の西柱列に重複して検出した。不定形な形状で、建物1柱穴に切り込まれ、これよりも古い時期の遺構である。深さは約0.2 m、埋土は暗灰褐色シルトである。土

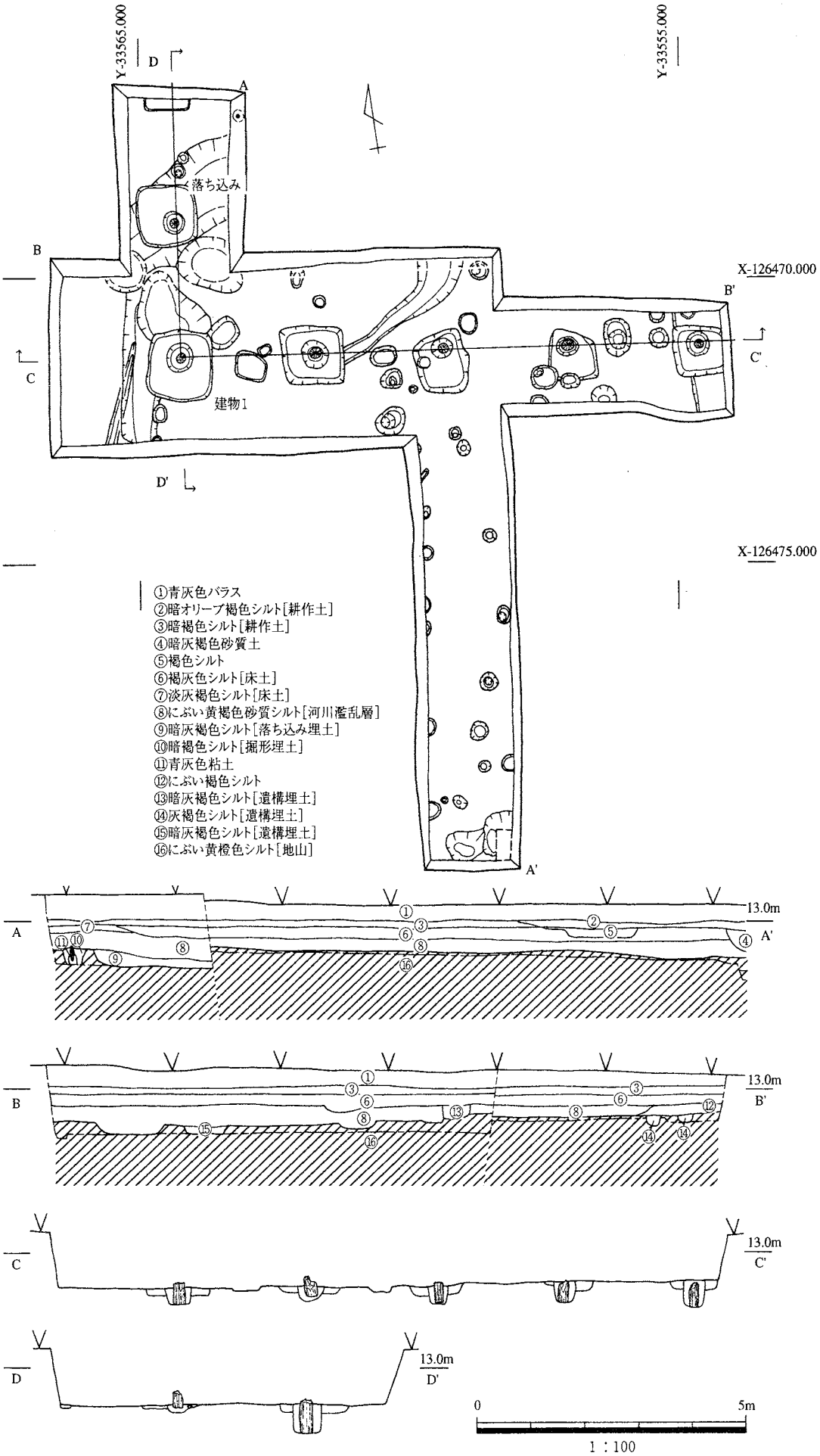


図12　安満北遺跡（2005-1）平面図・土層図

師器・須恵器が出土し、5世紀後半から6世紀初頭の年代が与えられる。

その他、建物1に重複して直径0.5m程度の円形を呈する小穴が、また調査区南部では直径0.3m以下の小穴を検出している。深さは0.3～0.1mである。一定の規則的な配置がうかがわれるものの、建物としてのまとまりは確証を欠く。土師器・須恵器が出土するものもあり、なかには古墳時代に属する遺物もみられることから、こうした小穴は落ち込みと同時期の遺構と考えられる。

遺物としては弥生土器・土師器・須恵器等があり、ほとんどが細片であるが、復元できた4点について記述する。弥生土器・鉢(図版第4b－1)は、遺構検出面の整地層から出土した。口径12.0cm、器高6.5cmで、口縁端部は横ナデし、脚部内面中央は押さえて窪ませる。色調は淡灰褐色を呈する。弥生時代後期に属する。須恵器(図版第4b－2～4)は落ち込みから出土した。2は杯で、口径10.5cm、器高4.9cm、やや内傾するたち上がりを持ち、口縁端部は内側に段をなす。底部外面にはヘラケズリを施す。色調は暗青灰色である。3･4は蓋である。3は口径12.0cm、器高4.3cmで、天井部が器高の1／2に及び、天井部の中位までヘラケズリを施す。口縁端部は内側に段をなす。色調は暗青灰色である。4は口径12.9cm、器高4.3cmで、天井部が器高の1／2以下となる。天井部全体にヘラケズリを施し、口縁端部は内傾して仕上げる。淡灰色を呈する。これらは、5世紀後半から6世紀初頃に属するとみられる。

小　結

今回の調査の結果、安満北遺跡において、はじめて奈良時代の掘立柱建物が確認された。これまでは、当該地の南東側に位置する高垣町付近(安満遺跡)で奈良時代から中世の遺構が検出されていたが、それらとの関連が注目される。さらに特筆すべきは、今回検出した建物の柱穴が非常に大きい点である。一辺が1m前後の掘形を持つ建物は、官衙遺構である嶋上郡衙跡でもごく稀であり、最近では大原駅と推測される梶原南遺跡や、淀川氾濫源に位置する港津に関連するとみられる津之江南遺跡など、非常に特徴的な遺跡で確認されている。今回、大型柱穴を伴う掘立柱建物が検出されたことで、安満北遺跡の評価の見直しが必要とされた。周辺にはこうした建物群が分布している可能性が高く、今後の調査に期待したい。

(高橋)

Ⅴ．出土遺物保存処理

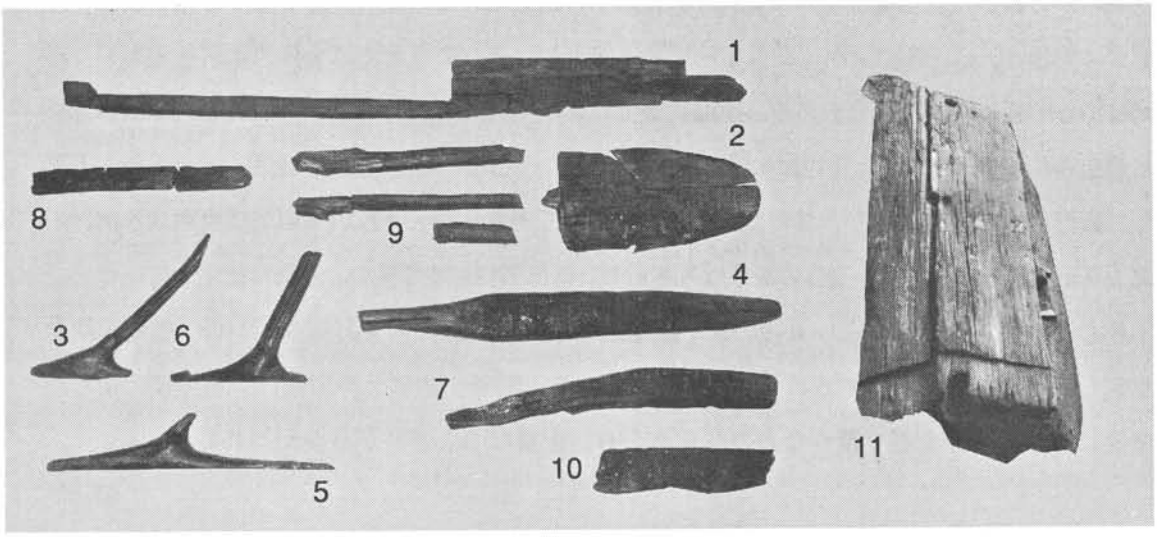
平成17年度は今城塚古墳の内濠から出土した木製品の保存処理を委託事業として実施した。

今回処理を施した遺物は、史跡今城塚古墳の第6・7次規模確認調査において出土したものである(表1)。出土地点は№1～10が北造出裾周辺、№11は南造出裾のくびれ部の付近であり、いずれも内濠底に接するような状態で発見され、鋤などの掘削具は古墳築造に用いられたと考えられる。

これらの遺物はいずれも腐朽が進行しており、迅速な対応が求められることから、高級アルコール法による保存処理をおこなった。

No.	名称	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	樹　　種
1	鋤	96	9.0	2.8	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
2	鋤	32	15.0	1.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3	柄	30	14.0	3.5	ツバキ科サカキ属サカキ
4	鋤	60	7.5	3.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
5	鋤	38	8.5	5.5	ツバキ科サカキ属サカキ
6	鋤	20	19.0	4.1	ツバキ科サカキ属サカキ
7	鋤	46	6.5	1.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
8	柄	78	3.0	3.0	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
9	柄	30	4.0	1.0	バラ科ナシ亜科
10	板	25	17.0	1.5	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
11	板	156	53.0	4.0	ヒノキ科アスナロ属

表1　史跡今城塚古墳出土木製品一覧



史跡今城塚古墳出土木製品

Ⅵ．闘鶏山古墳確認調査（第４次）

闘鶏山古墳は、平成14年の調査によって未盗掘の主体部(竪穴式石槨)２基をそなえた古墳時代前期前半(４世紀前半)の前方後円墳であることが明らかとなり、平成14年に国史跡の指定を受け、恒久的な保存が図られている。高槻市では闘鶏山古墳の保存整備に向けて、継続的に確認調査を実施している。今回の第４次調査では、前方部と、古墳の南側に付設されたとみられる土壇状遺構に合計７ヵ所の調査区を設定して実施した(総面積は約400㎡)。

【前方部】第１段(下段)及び第２段(上段)斜面と第１段目テラス(平坦面)を検出した。第１段斜面は遺存状況が悪く、東隅角部は流失していたが、傾斜変換点と前回までに確認している葺石裾部ラインにより、東隅角部の復元が可能となった。第１段目テラスでは、上面に直径10cm以下の礫を検出した。幅は前端部で１m、東側と西側は1.5mに復元できる。第２段斜面は、前端面と西側では遺存状況が悪く、一部で葺石を検出するに留まる。一方、東側では約５mの範囲で良好に検出できた。いずれも最下段には一回り大きな石(直径25～30cm)を使用して基底石としていた。これらの結果テラスを含め、墳丘全域が石で覆われていたことが判明した。

【前方部の盛土状況】前方部中央付近では、西半盛土は、小規模な土層で構成される東半盛土の西側斜面を約40～30度の斜面として削りなおした後に施工されていた。また、前方部南半部では、東半盛土の西側斜面を約50度の斜面で削りなおしたのち、西半の盛土をおこなうが、西端付近では、東側に傾斜する斜面をもつ西端盛土が存在しており、西半盛土は西端盛土と東半盛土の谷部を埋めるように積まれたものと判明した。中央付近と南半部で共通して検出した東半盛土の削りなおし斜面は、下部に位置する盛土の表層を削って新鮮にすることにより、上部の盛土との接着を強くすることが目的と考えられる。

【土壇状遺構】土壇の北西部と南東部、及び１次調査で確認していた墓壙状の土坑の規模と形状が明らかとなった。土壇上面には直径10cm以下の礫を用いた石敷を検出した。特に北面及び東面では直径15cm程度の石がほぼ直線的に並んでおり、さらに東面では全体的に石も大きく、斜面に沿って組み上げた部分もある。土壇は盛土によって形成され、南北17m、東西16mの方形と想定される。土坑は頂上平坦面のほぼ中央に位置し、上面は東西4.6m、南北2.8mの隅丸方形で、掘形はすり鉢状に下り、さらに下段を垂直に深く掘り込む。下段の平面形は東西3.5m、南北1.0mの長方形を呈し、全体の深さは0.8mで、低部西側がやや低い。遺物は出土していない。木棺などの痕跡はみられないものの、下段掘形の平面形は長方形であることから、棺の埋納を想定し、墓壙として認識することも可能とみられる。闘鶏山古墳との関係については、接した位置にあり、全面を石で覆うなどの共通点から、密接なつながりがうかがわれる。

（高橋）

Ⅶ．今城塚古墳規模確認調査（第９次）

今年度の調査は、おもに前方部から外濠にかけての古墳西半部と内堤東側の遺存状況を把握するために実施した。

調査の結果

前方部南西隅ではテラス上に円筒埴輪列が遺存していた。一段目テラス面縁辺付近の西辺ではほぼ一直線に並び、南西コーナーは台形形の隅切り状となる。検出した35個体の円筒埴輪は底部から10～15cm程度が残存し、底径30cm前後である。大部分は普通円筒とみられ、コーナー付近で朝顔形埴輪や須恵器の破片が出土した。

前方部前面にあたる西側斜面は一段目裾付近の一部が崩落し、二段目斜面では裾部のみに葺石をとどめていた。基底石とみられる一辺20～50cmの川原石は石材の長辺や広い面を前面にし、裾に沿って直線的に据えていた。二段目の盛土中からはメノウ製勾玉が１点出土した。

前方部北西隅は、数個体の円筒埴輪底部がかろうじて遺存していた。盛土は両隅部とも硬く締まった黒灰色や黄褐色の粘質土で構成され、表面を均質な黄灰色土で仕上げていた。

内濠は、内堤側北西隅で護岸列石を検出した。北西コーナーは明確な屈曲ではなく、緩やかなカーブを描く。列石は長辺を濠の斜面に平行して据え、数m間隔で縦方向に据えた石を配置していた。石材は長辺20～60cm、短辺10～30cmと長手のものが多く、これまで確認している内堤側護岸列石よりも大ぶりである。隅部では一辺30cm前後の平石を直列に３個、コーナーの谷線に沿って階段状に据えていた。濠の斜面角は約27度、護岸列石からは約12度の緩斜面となる。内堤上面では円筒埴輪列を検出した。北西隅部では、内側(内濠側)と外側(外濠側)の両側縁に沿って続く円筒埴輪列を確認した。埴輪列間の距離は、内堤西側で約14.6ｍ、内堤北側では15.2～15.4ｍで、隅角部の角度はともに約80度である。内側埴輪列は底部径30～35cmの中・小形品が約５cm間隔で密に並び、設置時の作業単位とみられる４～６本ごとのまとまりが看取できる。外側列は底部径40cm前後の大形品が多くを占める。コーナーは崩落していたが、北・西辺での埴輪列復元ラインから北西隅の位置が特定できた。

内堤北東側では内堤直下に石敷遺構を検出した。検出範囲は東西約９ｍ、南北約５ｍで、中央を近世に掘削された水路が横断するため、遺存するのは東西の側縁付近のみである。旧表土上面に数cm～拳大の円礫を配したもので、２種類の石材が認められる。遺物はまったく出土しなかったが、石敷に接して内堤の盛土がなされていることから、古墳築造に際して何らかの祭祀が行われたのであろう。

まとめ

古墳の旧状を良好にとどめる前方部南西隅では、前方部前面での二段目裾～埴輪列間の幅が約６ｍと後円部の3.5ｍよりも広く、テラス幅を意図的に広くしたと判断される。

内堤では護岸列石の配置状況や谷折部で隅の位置を示す解される階段状石列の存在が明らかになったほか、円筒埴輪列が外側に大形品、内側に中・小形品を多用し、外側の面をそろえるという今城塚古墳では一貫した埴輪配列をとっていたことが確認された。（宮崎）

抄　　録

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	嶋上遺跡群
副書名	
巻次	30
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	33
編集者名	鐘ヶ江一朗　橋本久和　宮崎康雄　高橋公一　清水良真　西村恵祥　佐伯めぐみ
編集機関	高槻市教育員会文化財課埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21−1
発行年月日	2006年3月

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガ 嶋上郡衙跡　33−E地区				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家新町395−8				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 14″	135° 35′ 46″	20051024	立会	個人住宅 建設工事
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙跡	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　75−M地区				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家新町163−28				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 20″	135° 35′ 54″	20060119	立会	個人住宅 建設工事
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙跡	官衙	奈良・平安				

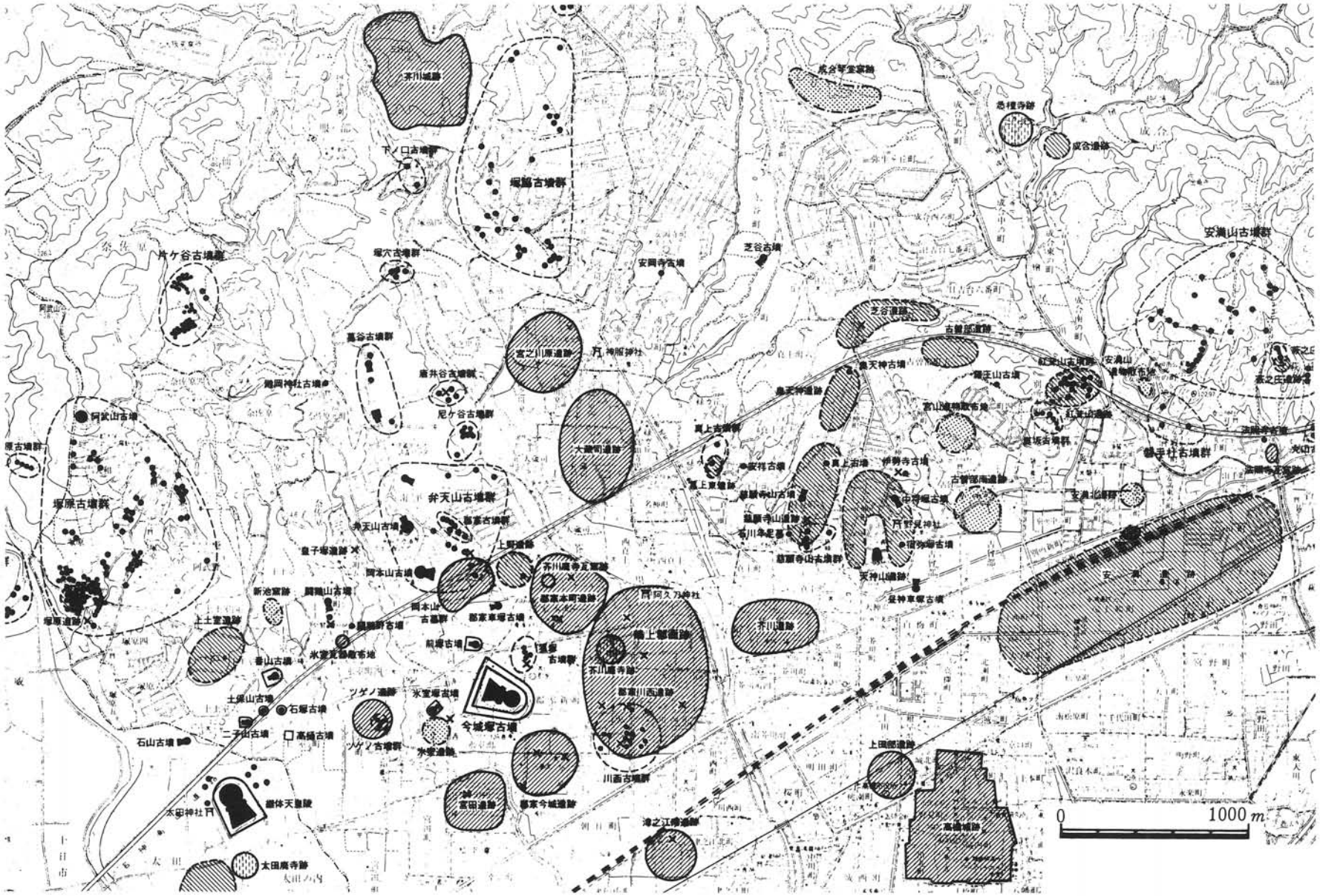
フリガナ 所収遺跡名		グンゲホンマチイセキ 郡家本町遺跡（2005−1）				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ グンゲホンマチ 大阪府高槻市郡家本町727−1他				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 30″	135° 35′ 41″	20050921 ～ 20050922	7 m²	個人住宅 建設工事
27207	38					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
郡家本町遺跡	集落	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		テンジンヤマイセキ 天神山遺跡（2005−1）				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ テンジンチョウニチョウメ 大阪府高槻市天神町二丁目932−57·70の各一部他				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 43″	135° 36′ 42″	20051114	4 m²	個人住宅 建設工事
27207	70					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
天神山遺跡	集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名		テンジンヤマイセキ 天神山遺跡（2005−2）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ テンジンチョウニチョウメ 大阪府高槻市天神町二丁目932−57･70の各一部他				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34°51′43″	135°36′42″	20051219	4 m²	個人住宅 建設工事
27207	70					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
天神山遺跡	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		アマ キタイセキ 安満北遺跡（2005−1）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ アマナカノマチ 大阪府高槻市安満中ノ町481−1、482、483−2				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34°51′45″	135°37′49″	20050812 ～ 20050822	16 m²	共同住宅 建設工事
27207	82					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
安満北遺跡	集　落	弥　生		土　器		

図　　版


不川城跡
成合琴堂家跡
悉檀寺跡
成合遺跡
下ノ口古墳群
堀鳥古墳群
安満山古墳群
片ケ谷古墳群
堀穴古墳群
安岡寺古墳
芝谷古墳
芝谷遺跡
古曽部遺跡
葛谷古墳群
宮之川原遺跡
神服神社
唐井谷古墳群
鳥天神古墳
鳥天神遺跡
鶴王山古墳
紅葉山古墳群
安満山遺物散布地
宮山遺物散布地
鶴岡神社古墳
尼ケ谷古墳群
阿武山古墳
大歳町遺跡
真上古墳群
安祥古墳
真上古墳
仲勢寺古墳
真上東遺跡
慈願寺山古墳
慈願寺山遺跡
不川年足墓
中寺堀古墳
古曽部高遺跡
玄番山遺跡
鍋手山古墳群
塚原古墳群
弁天山古墳群
都家古墳群
弁天山古墳
上野遺跡
皇子塚遺跡
岡本山古墳
不川廃寺瓦窯跡
都家本町遺跡
阿久乃神社
新池窯跡
鶴山古墳
岡本山古墳群
都家草塚古墳
鶴鳴新古墳
上土室遺跡
前塚古墳
嶋上郡衙跡
不川遺跡
不川廃寺跡
都家川西遺跡
香山古墳
水室貝塚散布地
土保山古墳
石塚古墳
ツゲノ遺跡
水室塚古墳
今城塚古墳
二子山古墳
高槻古墳
ツゲノ古墳群
水室遺跡
石山古墳
川西古墳群
継体天皇陵
宮田遺跡
都家今城遺跡
太田神社
湾之江遺跡
太田廃寺跡
上田部遺跡
高槻城跡
0
1000 m

図版第1

a. 郡家本町遺跡（2005−1） 調査区全景（東側から）

b. 郡家本町遺跡（2005−1） 北壁土層（南側から）

a. 安満北遺跡（2005−1） 調査区全景（南側から）

b. 安満北遺跡（2005−1） 調査区全景（南西側から）

a. 安満北遺跡（2005−1）柱穴検出状況（南側から）

b. 安満北遺跡（2005−1）出土遺物　　1：弥生土器（鉢）　2〜4：須恵器（杯・蓋）

a. 闘鶏山古墳前方部前端面葺石検出状況（南側から）

b. 今城塚古墳前方部南西テラス（南西側から）

高槻市文化財調査概要 33

嶋上遺跡群 30

平成 18 年 3 月 31 日

発　行　高槻市教育委員会
文化財課　埋蔵文化財調査センター
高槻市南平台五丁目21番1号

印　刷　株式会社　邦文社
大阪市東淀川区大桐1丁目4番9号